

Library News



大山崎中学校図書館

令和6年 2月



古典はいかが？

1月よりNHKの新しい大河ドラマ『光る君へ』の放映がスタートして、出版業界では紫式部や古典ものがちょっとしたブームになっています。古典は各学年の国語で必ず取り上げられています。日本人の教養として、源氏物語の内容を知っておくことや和歌の一つ二つを暗唱できることは何かの折に役立つかもしれません。というわけで、図書室も古典コーナーを設けました。新たに、中高生向きに訳された源氏物語の本、『紫の結び』シリーズ（荻原規子 訳）も揃えました。この機会に源氏物語を読破してはいかがでしょう。



蔵書点検のお知らせ

2月27(火)、28日(水)

期末試験中、図書室を閉館して蔵書点検をします。

返却期限を過ぎた本は必ずそれまでに返却してください。

また、もし家庭や教室に（学級文庫を除く）大山崎中学校のラベルが貼ってある本を見つけたという場合は図書室まで持って来てください。

閉館します



新着本



『いまにヘレンがくる』 メアリー・ダウニング・ハーン

母の再婚にともなって、田舎町の教会をリフォームした家に引越したモリーは、5才下の義妹ヘザーの面倒を見るように言われ、ヘザーと仲良くなろうとしますが、ヘザーは嘘ばかりついてモリーを苦しめます。そんな頃、モリーは裏の墓地からただならぬ気配を感じるようになり、やがてヘザーがヘレンという幽霊らしき少女と話しているのを目撃します。アメリカでベストセラーとなり長く読み続けられている圧巻のゴースト小説です。



『サクラサク サクラチル』 辻堂ゆめ

東大に合格するよう両親から厳しく指導されている僕。成績が少しでも下がれば、夕食抜きや暴力を振るわれることもある。「それ、虐待だよ。」ある日僕はクラスメートの星さんに言われ愕然としたが、聞けば、彼女もまたネグレクトの虐待を受けているという。お互いのつらさを話しているうちに僕たちはいつしか、親への最高の復讐を考えるようになり…

14歳の世渡りシリーズ から 賢く知って賢く生きよう！

『オタクを武器に生きていく』 吉田尚記

あなたが何かのオタクだとして、ずっとオタクのままで生きていたい、好きなことばかりして生きていたい、そう思っているならば、本書はぜひ読んでみるべきです。著者はオタクを自認しつつ、それを活かしてアナウンサーになった吉田さん。その彼が自らの体験やインタビューを元に、オタクを職業に活かして生きるための具体的な行動を提示してくれます。

『スマホアプリはなぜ無料？』 松本健太郎

LINE も Tik Tok もゲームもこんなに毎日使ってるのになんで無料なんだろう？考えたことはありますか？この世の中のしくみは14歳の中学生の知らないことだらけ。でも知らないで、いつのまにか搾取（さくしゅ）される側、つまり誰かを金持ちにさせる装置の一部になってしまうかもしれません。



司書のひとりごと 昨日の本棚から・・・『杉森くんを殺すには』 長谷川まりる

YA小説であっても大人が読んでぐっとくる小説は多々ありますが、本書もその一つ。高1のヒロはある日兄に「杉森くんを殺すことにした」と打ち明けます。兄は反対するでもなく、やりのこしたことをやっておけ、裁判の時に役立つよう動機を書いておけ、と冷静にアドバイスするだけです。この衝撃的な出だしからもう目が離せなくて一気に読み。段々と事実が明らかにされ、読者も「杉森くんを殺すこと」に納得し、ヒロの苦しい気持ちに寄り添うことができるようになります。繊細な心を持つ人の多い現代、悩む人も悩む人が身近にいる人にも何かしら希望をくれるような小説です。

